

(様式4)

令和4年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度、生徒の心身両面のさらなる成長と魅力ある学校づくりを目指し、5つの重点項目と10の達成目標を設定し、実践した。

重点項目1（学習活動）の「生徒の授業に対する満足度を5段階評価で4以上とした生徒の割合が60%以上」の目標は全体としては達成したが、「授業以外の学習時間60分以上の生徒の割合50%以上」の目標は2学期しか達成できなかった。考査前などを除くと、家庭学習の習慣が十分には身につけていない状況であり、進路支援ともあわせて個人面談等のさらなる充実を図りたい。

重点項目2（学校生活）の「生徒一人あたりの年間平均遅刻数1.0回未満」という目標は達成できており、全体としては落ち着いた雰囲気定着している。また、「質の良い睡眠を得られていると感じられる生徒の割合6割以上」についてはおおむね達成できているが、スマホの使用など睡眠習慣の問題点は残っており、生活習慣全般について家庭や地域、小・中学校との連携を強化する必要がある。

重点項目3（進路支援）の「自己の進路選択に活用するため、進路学習に積極的に取り組むことができたとする生徒の割合90%以上」、「進学補習・面接練習・個別指導などの進路支援に対して肯定的にとらえていた生徒の割合90%以上」という目標もともに達成したが、コロナ禍により従来の形に完全には戻せていない行事等もあり、さらなる改善の余地が残されている。

重点項目4（特別活動）の「ボランティアに一度でも参加した生徒の割合70%以上」については、コロナ禍により従来の活動に戻せていないため目標には届かなかったものの、意識としては確実に高まりをみせている。また、「年間一日あたりの図書室利用者数20人以上」は目標の7割程度に留まっており、委員会活動の活性化で改善を図りたい。

重点項目5（専門科目(家庭)）の「家庭科技術検定における合格率・取得率」に関しては、積極的に挑戦はしたものの1級での不合格者が例年より多く残念な結果となったが、いわゆる「三冠王」（食物調理1級、被服製作洋服1級、和服1級）は5名であった。また、「卒業時における生活文化科に対する満足度90%以上」については、コロナ禍により例年の行事や学習を実施できなかったものがあっても関わらず、目標を達成することができた。

今年度の10の達成目標の評価は、Aが3、Bが4、Cが3、Dが0であった。あと一步届かなかった目標が多いが、コロナ禍によりまだ活動が制限されていた中でのこの成果は学校評議員からは高評価であった。今回の結果をふまえ、さらに継続的な取り組みが必要である。

7 次年度へ向けての課題と方策

次年度に向けての方策として、次の点が挙げられる。

- ・今後ICT機器の操作に慣れた生徒が入学してくることとなり、教員側のより一層のスキルアップが求められる。生徒の主体的な学習活動に活かせるよう、研修や勉強会等を積極的に行って授業実践につなげる。

- ・主体的に行動できる生徒の育成を目指し、進路意識やボランティア・スピリットの醸成を促す各種行事のさらなる充実を図る。

- ・PTAや地域、小・中学校との連携を強化して地域ぐるみで生徒育成を進め、学校評議員をはじめとする外部からの評価を積極的に取り入れるよう努める。

グランドデザインを柱として教職員の意識の統一を図り、高い目的意識を持つ生徒が入学したいと思える学校を目指して魅力ある学校作りを進めていきたい。